カルメル
霊性センターニュース

Yasuoka Carmel

2016 年 6 月　　321 号

目次

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・１９

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・４２

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

心の泉

第三巻

第十章　忠実な霊魂に語るキリストとの親しい会話

１　子

≪「主なる神が私の心に何を語るかを聞こう」（詩編８５・９）。自分の内に語る主のみことばを聞き、その口から慰めを受ける霊魂は幸いです。神のささやきを聞き、この世の騒音を聞こうとしない耳は幸いです。外部のことに目を閉じ、内部のことだけに向けようとする目は幸いです。霊魂を理解しようと努め、日々の修業によって、天の神秘を悟ろうとする人は幸いです。神だけと交わることを喜び、世間の束縛をすべて脱ぎ捨てる人は幸いです。

反省せよ、わが心よ、おまえの内で語る神に聞くために、五官の扉を閉じなければ。≫

２　主

愛するお方は言われる。≪「私はあなたの救い」（詩編３５・３）、あなたの平和、あなたの生命である。私に一致しなさい、そうすれば平和を見いだす。過ぎ去るものをすべて投げ捨て、永遠のものだけを求めなさい、この世のものはすべて、人を惑わすだけではないか？あなたが創造主から見捨てられたら、被造物が何の役に立つであろう？それなら、すべて世のものをことごとく捨てて、まことの幸福を得、あなたの創造主に喜ばれ、忠実であるように努めなさい。≫

いつくしみの特別聖年を生きる　　－６月－

神は
　ご自分の愛を
　　約束なさるだけではなく
　それを　見えるもの
　　触れることの
　　できるものとなさいます

～教皇フランシスコ～　＊

うっとおしい梅雨の日、しとしと降る雨の中日ごと色を微妙に変えてゆく紫陽花が、日々の出来事に動き回っている者を静かに迎えてくれます。降りしきる雨にも、しとしと降りのときも、庭の片隅にじっと静かにたたずむ紫陽花。移り変わる日々の天候に少しづつ衣替えをしてゆくその姿に、わたしたちも神のいつくしみの雨の中に愛に変えられていくことができることを思いおこします・・・神のいつくしみに信頼し、希望するならば。

神はご自分の愛を約束なさるだけではなく、それを見えるもの、触れることのできるものとなさいます。愛は、決して抽象的な言葉ではなく、具体的な営みなのです。ですから日常生活の中で確かめることのできる、姿勢であり、行動です。・・・「神はわたしたちの幸せを望み、わたしたちが幸せで、喜びと平和にみたれているのを見たいのです。キリスト者のいつくしみにみちた愛は、その神の愛と同じ波長をもたねばなりません。・・・おん父がいつくしみ深い方であると同じように、わたしたちもまた、互いにいつくしみ深い者となるよう招かれているのです。」＊

今月の祝日、イエスのみこころ（３日）、聖母のみこころ（４日）、洗礼者ヨハネの誕生日（２４日）、ペテロ･パウロ（２９日）のそれぞれの恵みが神のいつくしみの証し人となるようわたしたちを支えてくだるよう祈りつつ、

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』特別聖年大勅書

人を赦す（31）

九里（くのり）　彰

海軍大佐淵田氏は、アメリカのお嬢さんの話を美しいとは思っても、それ以上のことは、分かりませんでした。しばらくしてまたGHQから出頭命令があり、上京し、渋谷駅前でリーフレットを配っている一人のアメリカ人に出会いました。彼は東京爆撃隊ドゥ・リトル配下の爆撃手でした。撃墜され、日本軍の捕虜となり、獄中で虐待を受けました。その時、なぜ人間同士がこうも憎みあわねばならないのかと考え、「人類相互のこうした憎悪を、真の兄弟愛に変えさせるキリストの教えというものについて、かつて聞いたことに心が動き、聖書を調べてみようという不思議な欲求にとらわれた」というのでした。リーフレットは、爆撃手の回心の物語だったのです。淵田氏は、こう続けています。

聖書というものがあるのかと私は気づきました。ひとつ、私も聖書を読んでみようと思い立ち、早速私は聖書を買い求めて、あちらこちらと探り読みをしている内に、ルカ福音書第23章34節に「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか、分からずにいるのです」とのところで、私はハッとあのアメリカのお嬢さんの話が頭にひらめいたのでありました。

これは十字架上からキリストが、今、自分を槍で突き刺そうとする兵士たちのために、天の父なる神さまにささげた、赦しの取り成しの祈りです。

敵を赦し得るこの博愛、今こそ私はお嬢さんの話がはっきり分かります。お父さんとお母さんが斬られる前の祈りを思った時、このお嬢さんの気持ちは180度の転向を示したと聞いたのですが、私もこの両親の祈りを思ってみるのでした。

「神さま、今、日本軍の人々が、私たちの首をはねようとするのですが、どうか彼らを赦してあげてください。この人たちが悪いのではありません。地上に憎しみ争いが絶えないで、戦争などが起こるから、かようなこともついてくるのです」。

キリストの十字架の死が、憎しみの連鎖を断ち切ったのです。

（続く）

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（103）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ピカレスク*な召命（1）

アントニオ・マリア・クラレットが列聖されたのは、あたかも昨日のことのように思い出します。ローマへ駆けつけた人々の中に、ドン・ホセ・マリア・ペマンがいました。彼は、グレゴリアーナ大学で、スペインの神秘主義について貴重な講演を行いました。アンダルシアのカディス訛りで発音された、「神秘主義のピカレスクな側面、神秘主義の永遠の重荷」といった表現を思い出します。決して忘れたことはありません。「ピカレスク」という言葉をここで使うとすれば、修道生活もまた重荷を受けやすいと私は思います。

十字架の聖ヨハネの生涯には、さまざまな非常に興味深い出来事があります。ここでそれらの中から二三拾い上げて見ましょう。

聖人がアンダルシアの管区長代理であった時（1585～1587）、グラナダにずっと住んでいました。

ある日、一人の人が現れ、入会許可を求め、会の修道服を願いました。

院長や修道者の何人かは、入会希望者の行儀の良さや雄弁に魅惑され、また見たところ、有能で優秀な学生であったので、彼に修道服を与えたいと思い、聖人にそう伝えました。しかし聖人は、修道服を与えるのは良くないと答えました。院長や修練長は、彼になぜそう考えるのかと尋ねました。聖人は言いました。「修道服を与えてはいけません。与えるならば、遅かれ早かれ、あなた方はその理由を知り、後悔しなければならないでしょう」と。

他の人々は、この言葉を気に留めませんでした。彼らは、入会希望者に修道服を与えました。そして、何日も経たずにして何が起きたでしょうか。

実際、何日も経たずに、「くだんの修道院に、くだんの修道士の妻と二人の息子がやってきて、夫を返してほしいと大声を張り上げました。というのもその修道士は、結婚していたのです。こうして修道服を脱がせ、彼を追い出しました。彼は妻と去って行きました」。

*スペイン語のピカレスカとは、「ならず者、無頼漢」の意味で、日本語で言えば、「やくざ」でしょうか。その形容詞、ピカレスクには、「ならず者の、悪党の」の意味だけでなく、「いたずらっぽい、お茶目な」の意味もあり、親愛の情も込められています。

年　間　第　十　主　日　（ルカ　7：11―17）

今日の福音は、死んでしまった人を生き返らせてくださるいつくしみ深い神の人、イエスの姿を伝える三つのお話の一つです。

ルカは、真の人間、温かで優しく人情味溢れるイエスの姿を一枚の美しい絵にして見せてくれています。カナの婚宴で母マリアと共におられるイエスは、ラビと呼ばれ、崇め尊ばれる特別の方でありながら、みんなの中の一人として目立たない存在でした。しかし今日のイエスは、一人息子の死という悲しみの深みに沈むやもめの母親をご覧になって、神のあわれみの心に突き動かされ、息子を生き返らせてくださいます。これを目の当たりにしていた人々は、みな驚き恐れを抱き、神を賛美して、「大預言者が我々の間に現れた。神はその民を心にかけてくださった」（ルカ７：16）と言い、目の前で起こったことを神の力によるものであると信じました。この事はユダヤ全体とその周りの地方一帯に広まって行きました。イエスは、「若者よ、あなたに言う、起きなさい」（ルカ７：14）との一言で息子を起こし、母親を不幸のどん底から救ってくださいました。全能である神、イエスの偉大な力が顕されたのです。真にイエスは人となられた神、私たちのうちに現存する、目で見、手で触れることのできる神の力です。

ルカはイエスの持っておられる神の力に加えて、イエスの神のいつくしみを強調します。ルカは、イエスを救い主としての敬称“主”と呼んだ最初の人であり、イエスの復活前に“主”という言葉を用いた唯一人の福音史家です。イエスのいつくしみの心から発出した一言で、死んでいた息子は起き上がり人々を驚かせます。イエスは息子をいつくしみの主からの新しい贈り物として、その母親にお返しになりました。

今日の福音は、人がこの世で経験する様々の痛み、苦しみ、悲しみなどの不幸な現実に対して、いつくしみの神であるイエス・キリストがどれほどの同情と憐れみの心を向けて関わっていてくださるかを明らかにしています。人類に永遠のいのちをもたらすためにイエスは人となりわたしたちの間に住まわれました。「どんな状況でもイエスを動かしていたのは、あわれみの心以外の何者でもありません。このいつくしみをもって、対話する相手の心を理解し、その人の本当の望みにおこたえになりました。」（教皇フランシスコ　“イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔”８）今日もやもめはイエスに奇跡を願いませんでしたが、イエスは彼女と共におられ、その悲しみを直感し、無言の懇願にお応えになりました。このときのイエスの心は人間に与えられている憐れみの心の極みです。イエスの願いは人を救うことであり、イエスの後に従う者が、イエスのように神のいつくしみを表し伝える者となって、周りの人の不幸に目を止め、神の恵みを引き寄せる者となることです。日々神のいつくしみを体験しているわたしたちは、必要としている人に神のいつくしみを願い、それをもたらす道具となれますように。いつも主と共に在って、自分の時間や神からの賜物を提供しながら、人々と人間社会の精神性を少しずつ変え、豊かなものにして行くことが出来ますように。　　(Sr. Paulina)

年間第 11 主日（C）ルカ 7：36～8：3

今日の福音の罪深い女は、娼婦であったと思われます。それが、主に触れて劇的な回心を体験しました。

ベタニアのマリアは、死から甦ったラザロそしてマルタの姉妹です。マグダラのマリアは十字架のもとまで主に従い、復活の主に最初に出会った人です。カトリック教会は伝統的にいずれも同一人物を指すと考えてきました（ギリシャ正教はベタニアのマリアは別人で、二人の女性がいたのだと考えるそうです）。ところが、現代の聖書学者はいずれも別々の女性がいたのであると言います。これが大勢です。しかし、私は伝統的な捉え方の方をとりたいのです。

ベタニアでの注油は、マルコ１４：３～９にあります。ここでは、香油は頭に注がれているのに、ヨハネ１２：１～９では足に塗ったとあります（同 11：２でも強調されている）。これは明らかに、ベタニアのマリアが罪深い女であることの暗示です。この二つの場面では、女は周囲のことを気にせず、自分のしたいことを大胆に行ないます。周りの人は女を批判しますが、イエスだけが女を擁護します。このように似たタイプの女性が、主の短い公生活の間に二人いたと考える方がおかしいと思います。さらに、ベタニアでマリアは女預言者の役目を果たしています。埋葬に備えてあらかじめ油を注いだからです（マルコ 14：9）。弟子の誰も受難予告（マルコ 14：31～など 3 回繰り返される）をまともに受けとめていなかったのに、ただマリアだけが、何か決定的なことが起こると予感して、主に出会ったときと同じこと（注油）を、今回はあれから入手できた最高の質のもので行なったのです。

マグダラのマリアは七つの悪霊を追い出してもらった（ルカ 8：2）こと以外、主に従うようになった事情が述べられていません。おそらくそれは、マグダラのマリアに対する福音記者の配慮だったのだろうと思います。彼女は大変尊敬されていたに違いないからです。復活の主に出会った最初の人だったのですから。マグダラはガリラヤ湖畔の町の名ですが、ティベリアス（福音書には出て来ません。富裕層のいた町）の人を相手にした遊女だったのでしょう。今回の箇所を読めば当時の人はそれが誰なのかすぐにわかったのだろうと思います。ベタニアのマリアは、何かの事情で故郷を離れ、放蕩息子のような暮らしをしていたのですが、主に出会い、罪をゆるされ（悪霊を追い出してもらい）、主に従うようになったのだろうと思います。その事情は、マルコ 14：3「重い皮膚病患者シモンの家」が暗示しています。ハンセン氏病を疑われ、故郷を離れ、ガリラヤに逃げたのかも知れません。想像の域をでませんが、やむにやまれぬ事情があったはずです。

（新井）

年間第１２主日　　（ルカ９：１８～２４）

本日の福音で、イエスは弟子たちにご自分を何者と思うかと尋ねています、そして人々がイエスのことを何と言っているかを知ります。イエスの質問はイエスが誰であるかではなく、群衆はイエスを何者であると言っているかについてです。弟子たちは群衆の様々な考えを繰り返します。それらは全部、多くの人々がイエスを本当に預言者であるとする預言的伝統によっています。死を経ずにメシヤの時代に戻ってくるとされているエリヤ、契約の櫃を隠していてそれを示す時となったエレミヤ、あるいはヘロデに殺された洗礼者ヨハネが預言者として生き返ったなどと言いました。弟子たちへのイエスの次の質問はもっと個人的なもので、弟子たちがご自分をどのように理解しているかについてでした。イエスはもう二年以上も一緒にいて親しい友である弟子たちが自分を本当に理解していたかどうか知りたく思いました。ペトロは弟子たち皆を代表して答えました。それは正しくもありましたが、完全ではありませんでした。イエスはメシヤであり、神の選ばれた人であるとペトロは言いました。「メシヤ」という言葉はヘブライ語で「油を塗られた」という語です。イスラエルでは、王は司祭と同様に油を塗られました。民と世界の救い主となる未来の王は、「油塗られた者」と言われるために来ました。

福音は更に私たちが自分の命と自己を捨て、日々の道で横切る試練に耐えイエスに従うことの必要に注意を引いています。名声や、富や、快楽を求める人は道に迷います。それはゴールが霊的な成長に反するものだからです。少し所有し、それで幸せであるほうがよいのです。頂く全てを神に感謝することです。他の人の上に出ることよりも、つつましく、神に従順で、掟に従うほうがよいのです。イエスが「自分の十字架をとり、私に従いなさい」というとき、これは通常の言葉ではありません。主に従うということは、イエスご自身による厳格な命令です。イエスに従順で、イエスの言葉を喜んで聞こうとする恵みをイエスに求めましょう。イエスの死はイエスだけに起こった出来事ではないことを思い出すべきです。イエスに倣う自己放棄は眞の弟子の条件として私たちに与えられています。イエスに従いたいと望む人は、変容への過程での十字架を日々抱きしめなければなりません。

イエスのこの福音の言葉の教訓は最後の数行にあります。キリストに本当に従う人は、もし永遠の生命に価値をおくならば十字架を進んで担い、もし必要ならばキリストのように進んで釘づけられなければなりません。私たちはキリスト者です、何故なら私たちはキリストが私たちに与えるため地上に来てくださった永遠の生命を心から持ちたいと思うからです。キリストは十字架刑によって耐え難い死を経験しました、これは当時知られていたうちで最も苦痛とともない、また最も屈辱的な処刑でした。キリストは私たちが天国に値いするようにさせるためにこの刑を受けたのでした。キリストは神の御子であり罪はありませんでした、キリストは私たちのために十字架刑を身にうけました。本日私たちはキリストに倣って日々の十字架を担いキリストに従っていくように招かれています。同時に神が与えてくださる信仰の恵みに感謝し、キリストに従う者、証人としてキリストと共にいて、神を深く愛するようにとの招きに神に感謝します。私たちはキリストへの忠実と信仰が必要です。

(Sr. Paulina)

年間第１３主日

（ルカ9：51－62）

今日のみことばは、イエスが苦しみを受けて十字架上で亡くなる時が次第に近づき、エルサレムに向かってゆく決心をされ、エルサレムへ歩んでゆかれる際の出来事です。

福音書の中に登場する「サマリア人」は、アブラハムの子孫ですが、同じユダヤ教のグループにあっても、ユダヤ人とは教義が異なり対立をしていた人達です。その村にもイエスは宣教のため使いを出しますが、彼らはイエスが自分たちの聖地「ゲリジム山」でなく、ユダヤ人の聖地「エルサレム」を目指しておられるため、イエスを歓迎しようとしませんでした。それでイエスは別の村へと向かわれます。

その歩みの中で、イエスは３人の人に出会いますが、具体的な人々の反応とイエスの態度によって、神に従うとは、イエスに従うとはどういうことかが示されてゆきます。イエスの歩みを眺め、イエスが語りかけた言葉を私たちへの言葉として受け取るとき、私たちはどの様に受け取り、イエスにどの様に応えようとしているでしょうか。

私たちは、イエスを喜んでお迎えしているでしょうか。イエスの歩み、望みが、私の意に沿わない、私の望み、私の希望に合わないといって、歓迎しない、受け入れない、追い出している様なことがあるとすれば、悲しいことですね。また様々な形で私たちの眼前に歩むべき道が示される時、ふと気付くと「まず･･･」という言葉が、私たちの心や口から出ていないでしょうか。もしかすると思い当たることがあるかも知れません。

キリスト者が神に従うこと、イエスに従うことは、平坦な歩みだけではありません。時にみことばのイエスの様な、枕する、安らぐこともない歩みもあるかも知れません。でもその様な道を歩むキリスト者とともに、イエスはご一緒に歩んで下さいます。

人々から受け入れられなくても、ご自分の使命を、御父の聖旨(みむね)を果たすため、エルサレムへと向かって歩んでゆかれるイエス。今日のみことばを通して、その真摯な姿を眺め、キリスト者、神の子とされた私たちも、イエスに従ってゆく恵みを願い求めたいと思います。イエスが私たちとともに歩んで下さることに心を留めながら･･･。

(Fr.　古川利雅)

「イエス伝」のこと　　石原淳子

イエスキリストに出会う、それも生涯をかけて共に生きるという、ぬきさしならない出会いであるとき、例えば、美術、音楽、文学などの作家たちは、自分の内なる「私のイエス」を、何とかして描き出したいと思うのだといいます。

現に私たちは、古今東西を通してそうした人たちの、魂を傾けた「私のイエス」に触れ得ます。　作者の信仰に触れ、現れ出るイエス像に触れます。　そしてそれは各々めいめいの内にある「私のイエス」との、より深い出会いへのよすがともなるのだと思います。

若松英輔著「イエス伝」を読みました。

先月号に少し触れたのですが、批評家である著者が批評家として書いたという「イエス伝」です。　「批評家には小説家の眼とは異なるイエスの生涯が描けるのではないか、　ことに現代のようなさまざまな文化や歴史、霊性が交わる時代においては、それらを有機的につなぐ批評の形式こそが、イエスの姿を浮かび上がらせることができるのではないか」と、著者の言葉です。

数多くの「イエスの生涯」「イエス伝」があります。

稚拙な読み手である私ですら、モーリヤック「イエスの生涯」、遠藤周作「イエスの生涯」、塚本邦雄「荊冠傳説」などなどを、本箱に押し込んでいます。いずれも若い日に息をつめて読み耽り、読み込んだ昔のものばかりですが、今もきっと私の内にはそれら「私のイエス」が残した痕跡が、存在していることでしょう。

若松氏の「イエス伝」は、小説家とはたしかに違った感触でした。

聖書によるイエスの生涯をたどりながら、誕生、洗礼、公生活、エルサレム入城、使徒の裏切り、最後の晩餐、十字架の道行き、死と復活などの場面場面に、実に豊富な文献を駆使して描き出される世界は、奇異な言い方ですが豪華と呼びたい示唆に富み、魂が深く沈む読み応えがあります。　著者の真摯な思いが随所にほとばしるようで、私はイエスを心の内へと読み込みながらも、同時に若松氏の霊性をも感じ続けていました。

とりわけ心惹かれたのは、ヨハネ２章１３－１６に関して１０頁にもわたって引用されているマイスター・エックハルトです。「魂の真実の姿は神以外の何者にも似ていない」「肉体があって魂があるのではなく　魂が肉体をあらしめる」「祈りとは自らの胸を開き魂に射し込む光の窓と化すること」「神は人間によって用いられる存在ではない」　これらを語る氏の心の深さ、熱情というのでしょ

うか、ひしひしと伝わるものがあり、私の魂は共鳴して思わず本箱から「エックハルト説教集」をとり出し、引用箇所である「魂という神殿について」の頁を開けることを誘われたことでした。
エックハルトについて、正統か異端かというようなことは私は何ひとつわかりません。　ほんとうに身勝手な思いだけのところで断片の断片を恣意的にみてエックハルトはいいなあ　などとつぶやくだけなのです。　　また、ユダについての考察や最後の晩餐の意味など、感銘を深く受けました。
　本書を読み終えたとき、復活のキリスト、神であるイエスが身近にあり、全編に備わる深い祈りの心とあいまって、著者の「私のイエス」が感じられる気がしました。　それは自ずと私の内なるものと呼応して、必然的に私自身の「私のイエス」を意識することとなりました。

　厚顔無恥としか言いようのないことを自覚しています。
　ほんとうに思いもよらなかったのですが、当誌に稚拙な小文を載せて何ということ、１０年目に入るところです。(申し訳ない気持ちです)
　当初、標題をつけてはとお勧めがあり、「深い淵からあなたに呼ばわる」としました。けれども大仰な感じにとりやめたのです。　しかし、こうして書き綴ることは、深い淵から「私のイエズス」への信頼をこめた呼びかけ以外ではありえません。　いつも共にいて、しっかりとひとつになっていて、それでいて遥かな「私のイエズス」への便りであり、日々のつながりなのです。「私のイエズス」は茫茫として境なく果てなく、感覚思考も及ばず、姿かたちにとらえることができないのですが、１００通にもなるこの便りは、「私のイエズス」なくしてうまれることはないのです。その意味で、暴言と知りつつ「私のイエス」像のひとつの形ですと言って、お許しいただけるでしょうか。

「イエスがこの世に生まれたことの秘義は、罪を悔いる者にはっきりと認識される」
「ナザレのイエスが死ぬことによって、世界ははじめてキリストを得る」

　若松氏の「イエス伝」を読んだこと大きなよろこびでした。

いのちの言葉　6月

互いに平和に過ごしなさい。

（マルコ9･50）

地球上のあちこちで起こる紛争によって、人類が傷ついている現代、このイエスの平和への招きは心に響きます。平和そのものでおられるイエスが「私の平和をあなた方に与える」と約束して下さったことを思うとき、心に希望が灯ります。

今月のみ言葉を伝えるマルコの福音の中では、カファルナウムの家に集った弟子たちにイエスが共同体としてどのように生きるべきかを説明しています。そして最後にイエスは、平和のうちにあらゆる善が内在するので、何をするにも平和を実現するために行うよう結論づけています。

ところで、平和というとき何を思い浮かべるでしょうか。実は、私たちは、家族や職場といった普段の暮らしのなかでも、あるいは又、政治的な考え方が違う人との間でも平和を体験するように招かれているのです。本物の深い一致を望むのであれば、相手との意見の違いを恐れずに心を開いて話し合うことも必要でしょうし、また、愛を土台にした関係が損なわれないような心配り（こころくばり）もいるでしょう。なぜなら、お互いの違いよりももっと尊いものは「相手の存在」だからです。

「一致と相互愛があるところにはどこにでも、真の平和がもたらされます。お互いに愛し合うところに、イエスが何らかのかたちで現存されるからです。イエスこそ、平和そのものであるお方です[1]」とキアラ・ルービックは語ります。

キアラの一致の精神は、第二次世界大戦のさなかに生まれ、憎しみや悲しみを癒す精神として人々の目に映りました。以来、彼女は、世界で紛争が起こるたびに福音的な論理、愛の法則を提唱し続けてきました。一九九〇年にイラクで湾岸戦争が勃発した時、キアラは「『敵』『憎悪』、そして戦況のニュース、捕虜、敗退など、すでに葬り去られたと思っていた言葉を再び耳にし強い痛みを心に覚えたこと、また、心の中で、キリスト教の根本的な精神であるイエスの『新しい掟』が傷つけられていることに愕然としました。お互いに愛し合うべきなのに、お互いのために死ぬ覚悟でいるべきなのに…。再び『憎しみという闇』の中に人類は閉じ込められてしまった。」とキアラは回想しています。　その当時もキアラは、どうしたら人

類は蔑(さげすみ)み、拷問、殺戮[2]…このような闇から抜け出せるのか？と自問しました。そして語っています。「私たちキリスト者は、他の一神教のイスラム教徒やユダヤ教徒の人々と、言い換えるなら、敵対関係にある人々との間にも新しい関係を築いていく必要があります。もし、お互いによい関係がすでにあるなら、それをさらに深め向上させていかなければならないでしょう。」[3]と。

同じことがどんな紛争を前にしても言えるのではないでしょうか。人と人との間、民族の間で、お互いに相手の話に耳を傾け、助け合う関係をつくりだしていくことが必要なのです。キアラは今もきっと「お互いのために命を差し出す覚悟で愛の関係」を築いていきなさい、と助言してくれることでしょう。たとえ、相手と心底分かり合えないにしても、相手を理解するために、自分の考えをいったん脇に置く必要があります。同じように相手も、私の考えや私の話を理解できないこともあるでしょうが同じようにしてくれるかもしれません。こうして、相手との間に違いや誤解があったとしても、相手に心を開いていくことで相手との関係を最優先していきたいものです。

今月のみ言葉は「平和に過ごしなさい」というイエスの命令でもあります。そのために真剣な努力がいるということでしょう。平和は私たちが保つべき「愛と慈しみ」の本質的な表れだからです。

ファビオ・チャルディ神父

＊2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ
03-3707-4018/03-5370-6424
長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ:
coni1157ch1.wix.com/focolare-jp

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>　　2016年3月27日

跣足カルメル修道会総長のカルメル在世会宛書簡

親愛なる在世会の兄弟・姉妹の皆さんへ、
復活されたキリストの平和と喜びが皆さんとともにありますように。

主のご復活の日、「豊かな憐れみにより私たちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって生き生きとした希望を与えてくださった」（1ペトロ1･3）父なる神の愛の勝利の日に、皆さんに兄弟的挨拶をおくります。

ご存知のように、昨年5月にアビラで総会議が開かれました。これに、在世会は、皆さんの代表者が、2014年9月に総長館の在世会事務局から送られた質問状に対する回答をもって参加いたしました。まず最初に、皆さんからいただいた総会への感謝と祈り、また諸提案に対し感謝申し上げます。総会中には、皆さんの回答にあった諸問題や諸提案について話し合い、フィードバックする十分な時間がありませんでしたので、この書簡をもってそれら言及したいと思います。

1．最初に、カルメル在世会の国際評議会の設立に関して、多様な意見が寄せられました。この案に対しては、熱狂的に支持する人々と、反対する人々がいました。確かに、評議会を早急に設立することに関しては、大多数の賛成は得られませんでした。国際評議会の有益性や適切性、その機能、また多言語による交流の難しさ、それに関わる財政的費用に関して、多くの疑問が出され、さらなる熟考が求められています。

これについては、個々の在世会の管区顧問会の役割を強化することが望ましいと思われます。カルメル在世会『会憲』（57-58）、及び各管区の「管区規定」によれば、管区顧問会は、修道者との対話と協力によって、共同体の使徒的努力を全うし、促進するために、養成コースや諸活動を組織する役割を担っています。私は、皆さんが管区や国を越えて管区間、国際間の協働に開かれたこの道を歩み続けるよう激励いたします。

2．私が大切と思うもう一つの事は、「養成」です。最初に私は、修道者たちに、信徒が在世というアイデンティティーの内に成長し、日常生活においてカルメル会の霊性を証しする者となるよう、在世会員の養成に熱心に取り組むよう求めます。この養成の任務は、個人と共同体に同伴することに加えて、ニューコミュニケーション・メディアにより得られる種々の可能性を利用することによっても果たされることでしょう。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< Communications（時事通信）>>

養成の第二の側面は、私の考えでは、もっとも重要なことですが、各共同体に、特に顧問会に直接関与するものです。その主な任務は、「共同体の会員をキリスト者及びカルメル在世会員として霊的に成熟させていく養成”を促進することです。それは、「キリストに従っていくことにおいて、その使命の奉仕において、カルメルのカリスマと霊性を生きる人間」（OCDS会憲46と32）を準備していくことです。これについては、各管区の養成プログラムは、今の時代と若者に適応した教育法に従って、絶えず刷新されてゆかなければなりません。今日のメンタリティに則してカリスマの理解を促進したり、在世会会員のアイデンティティーを明確にすることが求められます。さらに、召命の促進、識別、受入れ、支援は、共同体自身の存続にとって重大なことです。これらすべての活動は、テレジア的な共同体の兄弟的生活の良い模範がある時のみ効果を生じることでしょう。この兄弟的生活こそ、人をキリストという一つのぶどうの木につながれた枝からくる生命に生かし、他の人々に影響を与えてゆく豊かな大地です。これによってのみ、分裂の誘惑を乗りこえることや、この世がつきつけてくる多くの挑戦に私たちが対峙することを可能にしてくれるのです。

最後に、養成について思う第三のことは、宣教の次元にあります。教会における召し出しは、みな宣教への召し出しです。このために、今日においては、以前にもまして、堅固な養成を私たちは必要としています。しばしば敵対してくる、また多くの場所で反キリスト教的である多元主義的なこの世界のただ中で、福音の価値を証しするには、殉教に直面する勇気と堅忍が求められます。それは、イエスが約束された聖霊（ルカ12:11-12）や、祈りの生活やイエスとの友情からのみ与えられます。キリストへのこの力強い忠誠は、聖化される場に福音の救いのメッセージをもたらすために、また私たちのカリスマに従って各国の社会と教会の多様な必要に応じるために本質的なことです。私たちは、霊的な宝を受け取りました。これを分かち合い、神がすべての人間を無限に愛し、祈りの中で神との友情の旅に出発するようお望みであることを告げるために、人々へと向かってゆかねばなりません。私たちのカリスマのこの中核から、私たちはカルメル修道会の宣教活動と積極的に協働していくように召されているのです。

他方、教会自身は、福音宣教に関しては、刷新され信頼に足る情報を公文書の形で、特に新しいものとしては、『福音の喜び』を、私たちに提供してくれています。宣教は、主イエスとの友情、特に福音から生じるイエスとの愛の観想に根ざしています（『福音の喜び』264）。この友情の関わりのおかげで、私たちは、日常生活の中に、また出会う人々の中に現存するイエスを見出すことができるのです。おとめマリアは、歴史の出来事を心に思いめぐらした、この霊的態度の模範です。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< Communications（時事通信）>>

宣教する良き弟子であるために、私たちは教義とカルメルの霊性に関する良い養成が真に必要です。これについて、他の人々のために養成の教材や書物を送り支援している管区や共同体に感謝いたします。他方、私は、この目的のために、信徒、修道者、専門家による、定期的な養成コースを提供しているいくつかの管区の興味深い取り組みを思い浮べます。ご存知のように、カルメル修道会は、ローマとアビラに国際養成センターをもっています。私たちは聖地にも、来たる６年間、聖書学に基づくカルメルの養成を、いくつかの言語で継続して組織する計画をもっています。これらの場所は、すべての人に開かれており、時間と財源を要しますが、確かにとても重要です。

３．皆さんは、修道者、修道女、在世会員の間のより多くの交流を望んでいます。これについては、総長館が行なっていることの一つは、総長顧問会書簡があります。これは、総長顧問会終了後、各管区に送られ、修道女と在世会員に配布されるようになっています。またカルメル修道会の公式ウエブサイトは、現在、見直してしているところです。また、フェイスブックや、毎日の情報を知らせるためにツイッターがあります。これらは、ローマの跣足カルメル修道会総長館の公式サイトです。

カルメル山の聖母とその浄配聖ヨゼフが、あなた方お一人ひとりのため、また家族のため、また在世会共同体のためにとりなしてくださるよう祈ります。主が、「神のいつくしみの特別聖年」にあたり、神の国の現存のしるしとなる使命にあるあなた方を祝福してくださいますように。

兄弟愛のうちに

ザベリオ カニストラ
跣足カルメル修道会 総長

糸巻き棒からペンへ(10)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

第一に、太平洋やアメリカ大陸での征服に、多くのテレジアの知人や親戚が参加していました。彼女が 13 歳になった時、モクテスマの帝国（アステカ帝国）の征服者ヘルナン・コルテスが、インディオやエキゾチックな動物や果物を伴って、トレドにやって来ました。その後少しして、彼女の兄弟達や親戚や知人が、アメリカ大陸へ移住しました。その中の多くの者が、王に忠実な人々によって引き起こされたピサロや反逆者に対する戦争において命を失いました。

第二に、1524 年から 1648 年の間、ヨーロッパを荒廃させたカトリックとプロテスタントの間の宗教戦争がありました。それは、その時代のあらゆる軍事的対立の中で、もっとも長く苦しいものでした。本当の原因は、ドイツの諸侯の野望と皇帝の野望の衝突にあったというのは、事実です。しかし、さまざまな党派がローマ側に、あるいはルター側に立ちました。それによって、伝統的なキリスト教のいくつかの実践は（それらは、トレント公会議までは普通のことでしたが、プロテスタントによって推奨されたため）、カトリックの世界ではうさん臭く見られ、禁止さえされるようになりました。

第三に、スペイン人の三分の一は、経済的利害関係より引き起こされた他の国際間の紛争に巻き込まれていました。例えば、ナポリやミラノ公国の支配権をめぐってフランスと対立し（テレジアの父親も騎士としてナバラの戦いに参加し、聖イグナチオ・ロヨラはこの戦いで負傷しました）、イタリア半島における他の利害関係によって教皇庁とも対立しました（聖女が 12 歳の時、有名な「ローマ略奪」が起きました）。また地中海の覇権をめぐって、ベルベル人やオスマントルコと対立し（レパントの戦いは、1571 年に起きました）、大西洋での覇権をめぐっては、英国と対立しました（無敵艦隊の敗北は、1588 年でした）。また独立を求めていたオランダと、王位継承権をめぐってはポルトガルと対立しました。

最後に、イベリア半島内の民族的反乱も忘れることはできません。例えば、主に財政上の圧迫からカスティリャやアラゴンやヴァレンシアでの反乱が引き起こされました。また宗教的原因からモーロ人の反乱が起きました（1568 年から 1571 年までの期間、アルプハラスのグラナダ人の戦争へと発展しました）。

（九里訳）

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

カルメル会の企画案内

上野毛霊性センター　2016年4月～2017年3月

黙想企画　＊＊上野毛聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１６年１２月２４日(土)～２５日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

２０１６年

６／２４（金）、６／３０（木）、

７／８（金）、７／２１（木）、９／８（木）、９／１６（金）、１０／２８（金）、

１１／１１（金）、１１／２４（木）１２／９（金）、１２／２２（木）

２０１７年

１／１２（木）、１／２７（金）、２／９（木）、２／２４（金）、３／９（金）

３／２４（金）

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

２０１６年

７月３１日（日）１８時～　８月　９日（火）朝　　福田正範神父

８月１２日（金）１８時～　８月２１日（日）朝　　福田正範神父

１０月１３日（木）１８時～１０月２２日（土）朝　　福田正範神父

１２月２７日（火）１８時～２０１７年１月５日（木）朝　　福田正範神父

４．青年黙想会(男女)

２０１６年

１１月２６日（土）１６時～２７日（日）１６時

５．召命黙想会(男女)

２０１６年

１０月８日（土）１６時～１０日（月）１６時

６．聖週間前の黙想会　　福田正範神父

２０１７年

３月　１８日（土）１８時夕食～２０日（月）１６時

７．特別黙想会　　Ｓｒ．伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

２０１６年

１０月２８日（金）２０時～３０日（日）１６時

電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願い致します。

間違いを避けるためなるべく FAX・はがき・Ｅメール等でお願いできますならば幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel：(03) 5706-7355　　Fax：(03)3704-1789

Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http：//www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊日帰り黙想会＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章６章２５)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

＊企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：　2016年　６月２４日（金）　午後１時３０分～午後４時

６月３０日（木）　〃

７月　８日（金）　〃

７月２１日（木）　〃

お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９　Ｅメール：
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ

東京　上野毛教会

７月１６日（土）カルメル山の聖母の祭日ミサ

ミサ（聖堂）　10:00　19:30
お祝い会（信徒会館ホール）10:00 ミサ後
スカプラリオ授与式　19:30 ミサ後

７月１７日（日）カルメル山の聖母を祝うミサ

ミサ（聖堂）10:30
スカプラリオ授与式　　10:30 ミサ後

※スカプラリオをご希望の方は当日、聖堂前でお申込み下さい。

カトリック上野毛教会・カルメル会修道会上野毛修道院
〒158-0093　世田谷区上野毛 2－14－25
TEL 03－3704－2171

２０１６年　　黙　想　会　案　内

（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・１泊２日（午後５時～午後４時）

9月10日（土）～11日　人生の実りを思いめぐらす　　中川博道神父

【聖書深読黙想会】

・１日（午前10時～午後４時）

6月11日（土）　9月 10日（土）　中川博道神父

7月 2日（土）　10月22日（土）　中川博道神父

【水曜黙想】

（午前10時～午後４時）

6月 8日（水）　神のいつくしみとイエスの聖テレサ　松田浩一神父

7月20日（水）　神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ　松田浩一神父

9月21日（水）　神のいつくしみとエディット　シュタイン　松田浩一神父

10月19日（水）　神に愛されている喜び　シスタ-ロサ

11月16日（水）　いつくしみの御母、聖マリア　松田浩一神父

【キリスト教霊的同伴】

（金曜日：夕食なし）午後８時～午後３時まで

6月03日～04日（土）　10月21日～22日（土）　松田浩一神父

7月 8日～ 9日（土）　11月11日～12日（土）　松田浩一神父

9月 2日～ 3日（土）　12月 2日～ 3日（土）　松田浩一神父

【待降節の黙想】

12月10日（土）～11日（日）　夜露のように静かに訪れる神を待つ

（午後５時～午後４時）　中川博通神父

【聖テレーズの黙想】

9月30日（金）～10月１日（土）　伊従　師

（午後５時～午後４時）

【一般のためのカルメルの霊性セミナ-】

10月14日（金）～15日（土）　イエスの聖テレサの霊性　松田浩一神父

（午前１０時～午後４時）

12月13日（火）～14日（水）　十字架の聖ヨハネの霊性（2）　松田浩一神父

（午後５時～午後４時）

【奉献生活者の黙想】
（午後５時～午前９時）

8月 2日（火）～11日（木）	中川博道神父
8月15日（月）～24日（水）	松田浩一神父
12月27日（火）～1月5日（木）	松田浩一神父

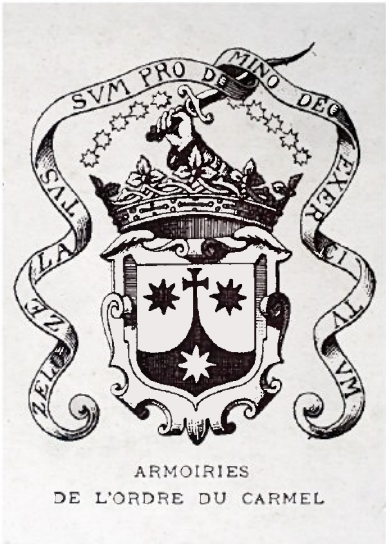
【English Retreat】

11月26日（土） （10am to 4pm）	Maranatha-Come Lord Jesus	シスタ.-ロサ

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０

12月24日（土）～12月25日（日）　{講話なし、各食事つき}



'ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。ー

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、E メールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

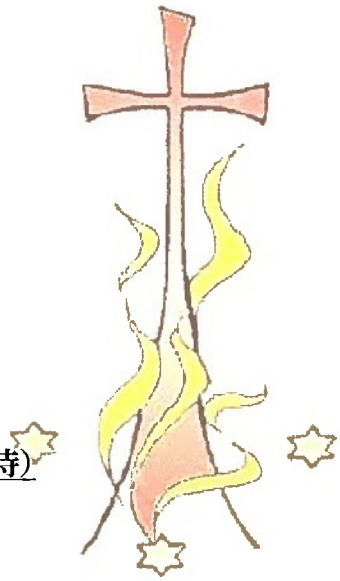
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016，　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。



【参加者人数】　6 名

【開催日】　2016年　2月19日（金）～20日（土）　終　了
3月18日（金）～19日（土）　終　了
6月　3日（金）～　4日（土）
7月　8日（金）～　9日（土）
9月　2日（金）～　3日（土）
10月21日（金）～22日（土）
11月11日（金）～12日（土）
12月　2日（金）～　3日（土）
（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

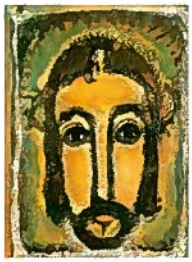
【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

— 特別聖年を迎えて —

1．　日 時：~~１月２３日（土）「いつくしみの特別聖年について」~~　終了
九里　彰 神父
~~３月２１日（月）「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」~~ 終了
九里　彰 神父
~~５月２１日（土）「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ~~
~~—イエスの聖テレジアの場合—」~~ 終了
松田　浩一 神父
７月１８日（月）「神のいつくしみの生きた証人となれ…
（福者フランシスコ・パラウと他）」
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）
９月１９日（月）「いつくしみの泉である教会」
今泉　健 神父
１１月２３日（水）「神のいつくしみ　～テレーズの果てしない希望～」
Sr. 伊従　信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

2．　場 所：カトリック日比野教会　信徒会館
（地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約５分）
3．　参加費：１０００円
4．　持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5．　プログラム
10：00　導入の祈り（聖堂）
10：20　第一講話（信徒会館）
11：30　念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12：00　昼食（信徒会館）
12：30　念祷 ②　赦しの秘跡または面接
13：00　第二講話
14：00　念祷 ③
14：30　ミサ（聖堂）
15：30　茶話会（信徒会館）
16：00　終了の祈り
6．　申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX　／ 0568 - 62 - 5167
mail　／ seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ／ 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田１－26
「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催　名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

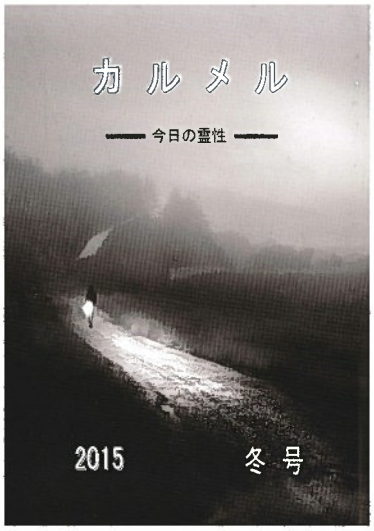
金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

「カルメル」
今日の霊性・春号
今日の霊性・冬号



2016 春 No.360

2015 冬 No.359

目次

《今年の特集　聖テレジアと奉献生活》
修道生活の改革 (4)
——アビラの聖テレジアの理想　九里　彰　3
エディット・シュタインの著作に見るアビラの聖テレサ
——祈りの真髄　須沢かおり　9

目次

《今年の特集　いつくしみの特別聖年》
「いつくしみの特別聖年」を迎えて (1)　九里　彰　3
「いつくしみの特別聖年」の意義について (1)
神のいつくしみという人間の目標
——ひとつの祈りにさそわれた考察　田畑邦治　9
いつくしみの秘義を生きる (1)　須沢かおり　15
風に吹かれて (7)
——成熟と喪失　原　造　22
イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (4)　松田浩一　25
聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて　最終回
——〈みことば〉がわたしのうちに住まわれている恵び
マリー・エウジェンヌ　編・訳　伊従信子　33
ジュリエットは孤独を生きる　森　みさ　41
神が慈しまれた道 (9)　奥村一郎　48

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。定価は、一冊４６０円です。
（サンパウロ、ドンボスコ書店、イグナチオ教会案内所、
上野毛教会の信徒ホール本コーナー、カルメル会上野毛修道院黙想の家等）

- 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558　Fax:　052-681-6445

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1 02/26（金）-03/03（木）滋賀唐崎・ノートルダム
N2 05/07（土）-05/13（金）滋賀唐崎・ノートルダム
K1 06/13（月）-06/19（日）東京・小金井・聖霊会
K2 10/01（土）-10/07（金）東京・小金井・聖霊会
N3 10/20（木）-10/26（水）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 12/05（月）-12/11（日）東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1 05/07（日）-05/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム
N2 10/10（火）-10/16（月）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山　2016年 － 祈りの集いのご案内

年間のテーマ

イエスとの出会い

その喜びを味わう

（レクティオ　ディヴィナ）

2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日　イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)

2月11日　アンデレ (ヨハネ　1:35-43)

3月10日　ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)

4月14日　トマス (ヨハネ　20:19-28)

5月12日　イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1,-7)

6月09月　ザアカイ (ルカ 19,1-9)

7月14日　サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)

8月　休み

9月08日　ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1,-18)

10月13日　マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)

11月10日　フィリポ (ヨハネ 14:7-14)

12月08日　ペトロ（ヨハネ 21:15-19)

指導者: フランコ神父

⌘ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１６年～２０１７年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー　下記（予定）の土曜日：
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度 夏学期：理性の自律と心の愛
6/11, 6/25, 7/2, 7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17
冬学期：10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)－8月28日(日)
18時－20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
・「黙想会」
6月18日(土)10時－19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)－20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)－19日(日)（上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切りは、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分－25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中).

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
6月11日、7月2日、8月6日、9月10日、
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●坐禅会
・月曜日、木曜日　17時45分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心
6月3日(金)　20時20分—5日(日)　13時00分
8月7日(日)　20時20分—13日(土)　8時30分
10月30日(日)　20時20分—11月3日(木)　8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
7月30日(土)17時45分－8月5日(金)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
6月25日(土)、10月15日(土)、 2017年1月29日(日)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座　2016-17年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)
5/6　理性と神認識の道－世界内存在を通して
5/13　創造された世界― 人間存在の根拠と自然の意味
5/20　歴史と信仰― 神との出会い
5/27　内なる神― その「似姿」としての人間
6/3　新約聖書の神理解― 主なる父
6/10　祈りによる神理解― 神の偉大さと近さ
6/17　救い主の役割― 人類の待望
6/18-19 ●黙想会(上石神井)
6/24　神の国― イエスの告げるメッセージ
7/1　イエスの生き方― 神に遣わされて人に仕える
7/8　イエスのたとえ話― 神の働きを語る
7/15　イエスの人間関係― 罪人と弟子と共に
7/22　イエスは誰か― イエスの自己理解
7/23　◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
7/29　最後の晩餐― 自分を与えるイエス
8/5,12　○休み
8/19　イエスの受難― その史実と意図
8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分)
8/26　イエスの死― その救済的意義
(8月中 上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/2　聖書のイエス像― ヨハネとパウロの見たイエス
9/9　○休み
9/16　イエスの復活― 今に生きるイエス
9/23　聖霊― 神の愛に導かれる
9/30　祈りの本質とさまざまな祈り方― 神と関わる
10/7　洗礼と堅信― イエスに結ばれて生きる
10/14　教会の成立と意味― イエスを中心に集う
10/21　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ

キリスト教理解講座　2015年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

［神］
6/7　世界の根源 ―― 創造的自由・進化・摂理
6/18-19　●黙想会(上石神井)
6/21　人生のうちに働く超越 ―― 神経験の多様な形
7/5　「私は在る」―― 旧約における神の自己啓示と預言
7/19　神の語りかけ ――「契約」と「救い主」の待望
7/23　◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
8/2　○休み
8/16　将来の約束 ―― 自立した世界の中の導き
8/20-28　●通う霊操 (18時－20時45分)

［イエス］
8/30　史的イエス ―― 活動と生き方の特徴
(8月中 上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/6　神の国 ―― イエスの使信
9/20　根本たる愛 ―― 律法の完成と克服
10/4　受難による救い ―― イエスの救済的役割
10/18　死からの命 ―― 復活の認識・経験・理解
11/1　○休み
11/15　キリストはだれか ―― キリスト理解の発展
11/19-20　●黙想会(上石神井)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い
カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです

東京　いつくしみの特別聖年を生きる：
6月11日（土）　午後２時～午後５時30分
講話：伊従信子
祈り・質問・分かち合い
７月１６（土）予定、ご確認ください
参加費　　２００円

～～～

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付‥開始日の 8 日前で締切ります

コース	日時＜指導者＞	指導者	開催場所	申込み
入門C	6/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナⅠ	7/15(金)17:30- 7/18(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
サダナⅠ	8/17(水)- 19(金) 9:00-17:00 *3 日間通い	Fr植栗	藤学園 キノルド資料館ホール (札幌市北区)	白鳥　栄 Tel 011-666-5622 080-1875-6682
サダナⅠ	8/22(月)- 24(水) 9:00-17:00 *3 日間通い	Fr植栗	マリアの宣教者フランシスコ会北広島修道院 (北海道北広島市)	皆木　智子 Tel 011-373-1568 090-2815-2271
サダナⅠ	9/2(金)17:30- 9/5(月)16:00	Frマルコ・アントニオ Fr植栗	聖ドミニコ女子修道院(仙台市青葉区) Sr内原　わさ（郵送または Fax） 983-0833　仙台市宮城野区東仙台6-8-25 オタワ愛徳修道院 Fax　022-293-3675	

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel &Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A．B．C）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ　・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。
① 2016年 5月 6日（金）～ 5月14日（土）
② 8月14日（日）～ 8月22日（月）
③ 10月19日（水）～ 10月 27日（木）
④ 12月27日（火）～ 2017年1月 4日（水）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2016年 2月 5日（金）～ 2月7日（日）
② 2月26 日（金）～ 2月28日（日）
③ 3月 18日（金）～ 3月20日（日）
④ 6月17日（金） ～ 6月19日（日）
⑤ 7月22日（金）～ 7月24日（日）
⑥ 9月16日（金）～ 9月18日（日）
⑦ 11月18日（金）～11月 20日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月30日（月）～ 6月7日（火） 中川博道 師 （ｶﾙﾒﾙ会）

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2）住所 3）電話番号 4）希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度　青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所：　ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
対象：　独身女性青年信徒
費用：　2,500円（一日参加も可）
申込み・問合せ：　*ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院　シスター桂川*

Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

―冬と春―

2016年度　第2回　青年黙想会

日時：　7月9日（土）15：00 ～
10日（日）15：30 まで
場所：　ノートルダム唐崎修道院　（JR京都駅から30分）
指導：　山内　十束 師　（ご受難会）
対象：　独身青年女性信徒
費用：　2,500円
締切：　2016年7月3日（日）まで

〈申込み・問合せ〉
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
ノートルダム教育修道女会　Sr. 桂川
Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００

【2016年予定】

~~3月17日(木)『霊の賛歌』第１回目：導入の講話（緒言と詩）~~ 終了
~~5月26日(木)『霊の賛歌』第２回目：はしがき・概要・注解~~ 終了
7月21日(木)『霊の賛歌』第３回目：第一の歌（ 2～12）
9月22日(木)『霊の賛歌』第４回目：第一の歌（13～22）
11月17日(木)『霊の賛歌』第５回目：第二の歌
12月15日(木)『霊の賛歌』第５回目：第三の歌

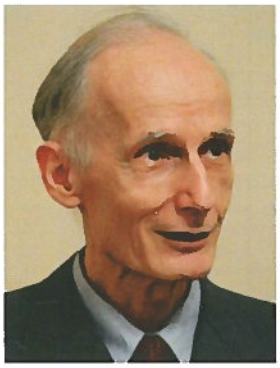
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「神のいつくしみに気づく」
指導司祭：九里彰神父
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。
＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１　Fax: ０３－３７０４－１７８９

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

交通事故の何パーセントかは、居眠り運転ではないかと思われる。長距離トラックの運転手が起こす事故も、おそらく居眠り運転ではないだろうか。実際私も、大分前から一時間以上運転していると、決まって睡魔に襲われるようになった。そのたびに必死に睡魔と闘い、何とかPAにたどり着き、命拾いをしている。

先月も、一度ならず、車で長旅をし、さすがに疲れた。電車と違って、走行中に寝るわけにはいかない。ところが、先日、自動運転の車が開発されているとのニュースを、テレビで見た。

運転席と助手席を逆向きにすれば、後部座席の人と向かい合い、走行中に会議もできるという。目的地を設定しておけば、ハンドルを操作しなくてもそこにたどり着くようであるから、まさに夢のような話である。これであれば、車の中でもいくらでも寝ることができるだろう。もっとも、目が覚めたら天国ということにならなければよいが…。

（P.九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「７月号」製本日　　６月２８日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171